

なのはな通信

第21号 2011.3



編集・発行

勤医会東葛看護専門学校

〒270-0174 千葉県流山市下花輪 409

TEL 04-7158-9955 FAX 04-7159-7055

発行責任者 石倉 啓子

ザリガニとカマと看護学生

撮影 小林 功



友の成長をともに喜び合う学校 校長 竹内 信治郎

本校の看護教育の総仕上げは、卒業年次の総合実習です。その内容を卒業論文としてまとめ、後輩、教職員、実習指導者のみなさんの前で、一人ひとりが演壇で発表します。

学生たちの卒業論文の内容は、患者さんから学んだことや励まし、つらい思い、自分との葛藤、友だちとの意見の違いを克服していく成長の記録が満ちあふれていてとても感動的です。また、お互いの成長を自分のことのように喜び合い涙する場面の連続です。

私は全員の卒業論文の発表を聞く機会を得ましたが、とても感動しました。学生のみなさんにありがとう、と、感謝の気持ちで一杯です。

ある学生は卒論発表の中で次のように述べています。

「総合実習では一つ一つ疑問に思うことで、深いところまで考えることができた。また、自分の課題も明確になりこのままの状態では看護師になってはいけないと自覚することができた。自分の看護師像は、はっきりしているのに自分自身と向き合えなかったが、総合実習では自分の課題としっかり向き合うことができた。ただ病態を観察したり、処置を行う看護師ではなく、患者さんや家族の気持ちを考える看護師にな

りたい。技術を磨くことは働いていくうちに向上させることはできるだろうが、人としての心を磨くことは自分がそうなりたいと努力しなければできない。自分

の人間としての心の成長はまわりの人の幸せにつながると思う。これからも自分としっかり向き合いながら学び続けたい。」

卒業していく学生全員に卒論発表の機会が与えられ、教職員や実習指導者から温かい励ましの言葉が贈られます。その光景を目にして、本校の学生のみなさんは何と幸せな学生だろうと思いました。それと共に学生の成長を学生と共に心から喜ぶ教職員や実習指導者のみなさんの温かさにとっても熱いものを感じました。東葛看護専門学校は単なる看護師の養成所ではなく、患者さんと向き合うことは自分と向き合うこと、患者さんの願いを実現することは自分の願いを実現すること、人の命はみな平等であることを学び、学生の成長を育む本当の教育が実践されている学校であることを確信することができました。この通信がみなさんに届く頃には江戸川の土手一面に黄色の菜の花が咲き乱れていることでしょう。



学 校 行 事

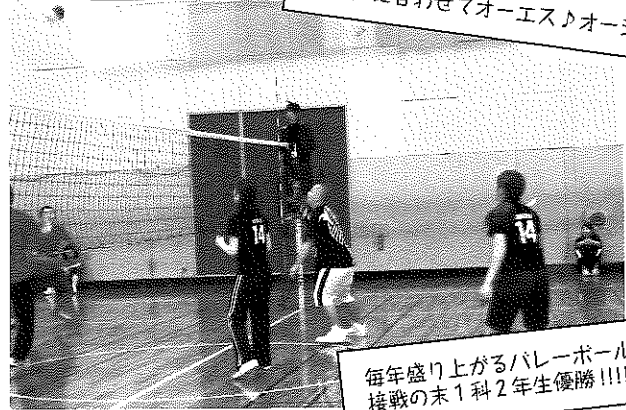
2010 写真で語る

第16回 東葛看護専門学校体育祭

6月4日、第16回東葛看護専門学校体育祭が開催されました。好天にも恵まれ学生・教員が参加しました。今年のテーマの『激アツヒーハー！ 心が一つになるとき、最後はみんなの笑顔』の通り、学生・教員が心一つにして体育祭を盛り上げ、笑顔の絶えない体育祭になりました。競技は例年盛り上がるバレーボール、綱引き、ムカデリレー、ドッチボールに今年は新たに借り人競技が加わりました。1科2年生は生命活動、1科3年生と2科2年生は実習中での参加でした



毎年恒例の綱引き!!
掛け声に合わせてオーエス♪オージャス♪



毎年盛り上がるバレーボール。
接戦の末1科2年生優勝!!!!!!



万年3位の1科14期生! イエーイ!!

が、日頃の運動不足とストレスを解消するべく十分に楽しむことが出来ました。結果は、1位は心が一つになった「1科2年生」、2位は体力の有余っている「1科1年生」、3位は3年連続の「1科3年生」、4位はピンクがまぶしい「2科1年生」、5位は優しさあふれる「2科2年生」でした。今年はケガもなく、みんなが楽しめました。各クラスの体育祭実行委員一丸となって準備を進め、大成功に体育祭を終える事ができました。

(体育祭実行委員長 森下実緒、他 実行委員)



原水禁世界大会

広島で開催された世界大会は2010年5月のNPT再検討会議の際のニューヨーク行動や核兵器廃絶への世界の世論の高まりを受け、「核兵器の無い世界」の実現に向けて世界各地から人々が集まり、盛大に開催された。

今回、はじめて被爆者の方と直接お話しをして、被爆後の差別、消せない記憶からくる苦悩から原爆の残虐性を知ることができました。大会の最中、被爆者や平和活動家が共通し

て言っていた「原爆が落ちたらどうなってしまうか、もしそれが自分や家族や友人の上に落ちてきたらどうなるのか。」ということ想像すること、その想像力をもつことが、平和を考える上でとても大事なことだと思いました。(竹村ちひろ)

私はこの旅の間、多くの人とそれぞれの平和や世の中に対する思いや考えを交流しました。核の脅威は敵・味方関係なく、無差別に地球上の生き物の命を壊し続けること。核廃絶は人類共通の課題であり、こうした世界中の人たちがつながり運動をおこすことで、世論を動かし、政府を動かし、世界を動かしていくのだと感じました。大会1日目の青年交流会で、川田忠明さんが言っていた「自分の気持ちをこめて伝えれば、思いは伝わる!」という言葉が思い出され心強さを感じました。(中島葉子)

第16回 東葛祭

2010年10月1・2日、第16回東葛祭が行われました。今回のテーマは「わっしょい、わっしょい、心をついに燃える東葛愛」でした。

東葛祭1日目の午前は、「学びの発表」で各クラスの学びの共有をしました。普段、学年や科を越えての交流が少ないので、お互いのクラスの学びを通して学びの内容を垣間見ることが出来ました。

午後は、NPO 法人代表の牧野アンナさんを招き講演をしていただきました。牧野さんは、ダウン症の子どもたちのためのエンターテインメントスクールを立ち上げ、ダンスを通じて世界中の人たちにダウン症について知ってもらいたいと考え、活動しています。講演会では、子どもたちの可能性を広げたいという熱い思いや、子どもたちが純粋にダンスと向き合い、

一生懸命頑張る姿が伝わってきました。障がいをもつ子どもである前に、一人の人としてみて欲しいと話す内容に、私自身も励まされました。また、



講演する牧野アンナ氏

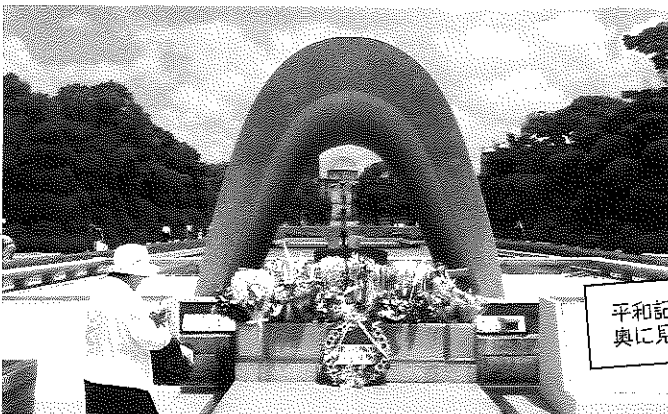


おいしいよ～ 出店です。

障がい者に対しての偏見があり、障がいのあるなしで様々な事を制限されてしまう現状があることを知り、まずは多くの人達に子どもたち本来の姿を伝え、知ってもらうことが大切だと感じました。

2日目は、お楽しみ企画で、縁日や出店・お化け屋敷・手話教室など、他学年が交流しながら楽しみました。地域の方や患者さんなど外部からも400名余りの方が来てくださり、楽しい東葛祭になりました。

(東葛祭実行委員 2科2年 比嘉千尋)

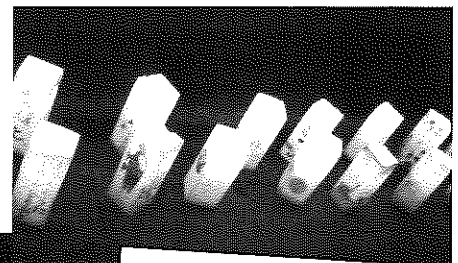


平和記念公園に到着！！
奥に見えるのは、原爆ドーム。

原水爆禁止 2010年世界大会

世界が動き出している。その大木は、一人一人の志から生まれたものです。

いま、どんどんと孤立化の進むこの社会情勢の中、これだけ多くの人たちと繋がっていることを実感できるのは日常的にあまりにも少ないように思います。だからこそ、この場の温かさを身に沁みて感じました。そして、全国、全世界にはとても意識の高い、素敵な人が大勢いることを目の当たりにし、私自身、刺激を受けました。(ハーリー菊池)



大会最終日に行われた灯ろう流し。
原爆ドームのまわりにも、多くの
人々の平和へのメッセージがとも
されました。



千葉津田沼を、夜に出発して翌日昼頃に広島
平和記念公園へ到着！ピースバスにて

学生と1科1年生 共に歩んだ一年

1科16期生

浅木 祐 飯塚絵梨 岸波珠理
木村 俊 黒瀬愛見 田岡 愛 竹内麻美

担任

青山陽子 内野陵子 江島典子

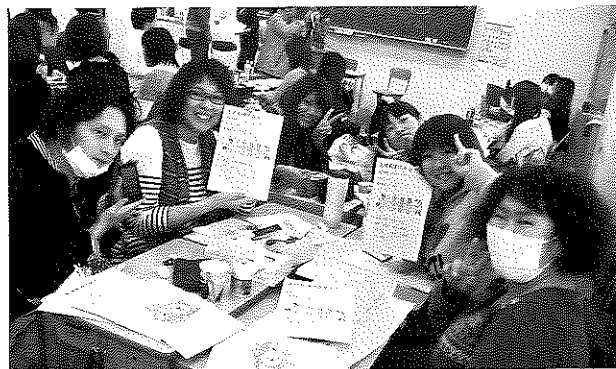
あすなろの里

私達16期生があすなろの里に1泊2日で研修旅行に行ったのは、2010年4月に入学して間もない頃でした。お互いの顔や名前が覚えきれていない状況で、一人一人が今では考えられないくらいに緊張している様子でした。バーベキューやうどん作りを行い、それぞれの看護師に対する想いを知る事ができ、懐かしくもありがたいせつな思い出になりました。このときの思いを大切に、クラス皆で今後の学校生活を過ごして行きたいと思っています。



体育祭

6月には流山総合運動公園の体育館で体育祭が行われました。看護学校に入ってまさか体育祭があるとは思わず、1年生は初めての体育祭という事もあり、緊張と楽しみな気持ちでいっぱいでした。前日までに、体育祭実行委員が競技と物品の準備を行いました。当日では、クラス全員が一致団結して、年齢・性別に関係なく楽しみ、クラスの絆を深めることができ、総合2位になることもできました。こういった行事の中からもチームワークの大切さがわかりました。体育祭から得たことも、実習や日々の生活に活かしていきたいと思っています。



基礎実習

入学してからの1年間で2回の実習を行いました。初めての病院実習では、それまで学内での演習を重ねていたものの、実際に病棟に出てみると思うようにいかないことの連続でした。患者さんの前で頭が真っ白になってしまって技術を上手く実践できなかった人、知識不足から患者さんの計測値について正常か異常かを判断できなかった人、考えがまとめられず患者さんに合った技術が実践できなかった人など、自分たちの力不足を痛感しました。

基礎1-1実習にくらべて行える技術が増えた基礎1-2実習では、限られた時間の中で自分たちに何ができて、何ができないのかを考え、実践する場となりました。患者さんは「ただ病気を持っている」という視点から見のではなく、1人の人間として接していくことが大切であるということ学びました。患者さんのことを1番に考え、自分達で行った技術に喜んでくれた患者さんの笑顔を見て、私たちも幸せな気持ちになれた良い実習になりました。

自分自身を振り返れば反省点ばかりでしたが、学生同士で意見を交換する事で、私たちが自分を見つめ直す上で前向きになれることもありました。担当させていただいた患者さんにとって「何が一番安楽なのか」を考え、それに近づく努力をしている自分に気付けた人、患者さんと接しているときに笑顔を決やさないよう心がけていることに気付けた人、担当教員や臨床指導者さん・ペアやグループメンバーからの指摘を素直に受け入れて反省できた人など、自分が思い描く看護師になるために、自分には何が足りなくて、何に自信を持って取り組んでいくべきかを確認することができました。



東葛祭

10月2、3日に第16回東葛祭が開催されました。各学年の東葛祭実行委員会が夏休み前から準備をしていきました。一日目の学びの発表では各学年それぞれの学びを全校で共有することができ、学びが深まりました。また、記念講演では牧野アンナさんの話を聞くことができました。ダウン症の子どもたちとの関わりについて聞かせていただき、人間の可能性について考えさせられました。二日目は、各クラスが縦割りに分かれ、実行委員を中心に協力していきクラスを超えて団結し、東葛祭を成功させることができました。

レク係

夏休みには、レク係が中心になって静岡の熱川温泉に行き、横浜の中華街などクラスの仲を深めることができました。学校の外でも皆で集まり交流を深めることによって、上辺だけでなく真の仲間と言えるような関係に近づけたような気がしました。これはチーム医療で行う看護師を目指すこととしてとても大切であり、学生のうちから座学だけでなくクラスと交流する事や、一から学生が計画し、自分達で実行するという経験は私達にとってとてもかけがえのないものだと感じました。



ナーシングセレモニー

1科16期生のナーシングセレモニーの準備は実行委員が中心となって、クラス全体での話し合いを重ねて作りあげられました。

最初に話し合われたことは、ナースキャップをかぶるか否かでした。「ナースキャップはあこがれ」、「ナースキャップを



かぶることを親が楽しみにしている」、「看護師=ナースキャップというイメージがある」、「今、現場では被っていないのなら一生に一度はかぶりたい」という、セレモニーでナースキャップをかぶりたいという意見が多数でした。しかし一方で、「現在、医療現場では衛生面の問題、ナースキャップの接触による医療事故などの理由から、ナースキャップは廃止傾向にある」、「ナースキャップは"看護婦がかぶるもの"というイメージが強くあり、「看護師」という名称が変わった今、男女平等の意味も込めナースキャップは不要ではないか」という現実を鑑みて、ナースキャップをかぶらない方が良いのではないか、という意見も出ました。このように、ナースキャップを通して両極端の意見が出たことによって、「何のために、誰のためにナーシングセレモニーを行うのか」というセレモニーの目的を、クラス全体で考える機会となりました。その結果、「ナーシングセレモニーは自分たちが看護師になる決意をする場所である」という意見にまとまり、その上で、セレモニーの中でのナースキャップの位置づけについて話し合い、クラス全員で「かぶらない」という結論に至りました。

また、セレモニーの中でのキャンドル灯火についても話し合いが持たれました。私たちのクラスは、今一つまとまりのあるクラスとは言えないかもしれませんが。だからこそ、「このナーシングセレモニーでひとつになろう」、「苦しい時も助け合えるクラスにしよう」、「皆それぞれが違った個性があり、それを尊重し合えるクラスにしよう」という意味を込めて、キャンドルを一齐に灯すのではなく、隣の人から隣の人へ、一人ひとり火を灯しあう形にしました。またその際に、生徒それぞれの「看護師になる決意」を発表しながら灯すことにしました。

以上のように、例年までのナーシングセレモニーとは大きく異なった形式にはなりましたが、これはセレモニーを「それぞれが自分の理想とする看護師になる為の出发点」と位置付け、全員で作りに上げた結果です。これからの学習や実習を通してたくさんのことを学び、セレモニーの中で表明した理想の看護師に近づけるよう、クラス全員で努力していきます。

最後になりましたが、16期のナーシングセレモニーにご来場くださった皆様に、クラス一同心より感謝申し上げます。

学生と1科2年生 共に歩んだ一年

1科15期生

沼澤太郎

担任

高田澄子 江藤ちひろ

15期生は、生命活動を通して、生命誕生から人の体のさまざまな機能をグループで学び、クラスで共有した。体育祭では、クラス一丸となり優勝することが出来た。生命活動の学び、成人1実習や母性・外科・精神・小児の各論実習につながった。8月から12月までの各論実習ではグループ内で話し合い協力して乗り切ることの大切さを学んだ。また、母性で受け持った新生児が、4ヶ月後の乳児健診で再び会えた。子どもの成長発達を身近に感じた瞬間であった。外科実習で学んだ術後の観察も小児実習で生かすことが出来た。田植えと稲刈りは、実際に体験することでお米を作る大変さと安全な食品の重要性を学べた。恒例のクラスレクでも笑顔が絶えず、日々成長出来たと実感できた年であった。

《5月 体育祭》



パワー全開♥
気持ちを1つにして1位をとったムカデ競争 (丸山)

優勝、本当に嬉しかった〜♪
15期生、全員で頑張りました♥ (徳堂)



《6月 田植え》



天気は曇り、みんな寒い中、泥まみれ。
最後、雨に降られて半泣き!! でも、達成感でいっぱい☆
顔がヤバイのは気にしな〜い。
おいしいお米になーれっ (石田)



初めは、田んぼに入るのに
抵抗あったけど、入ってしま
えばとっても楽しかった。お
米もおいしくいただきました。
(長田)
田んぼを管理してくれた人に感
謝感激 (佐野)

《夏休み自主レク第2弾。山梨県 河口湖》



みんなでバーベキュー、花火楽しかった。ほうとう鍋も美味しかった。子どもと一緒に楽しめた。優しいお兄さん、お姉さんありがとう。(篠田)

《8月 各論実習にむけて母性の沐浴演習》



子どもってこんなに小さくて可愛いな〜♥ (平)
子ども嫌いだけど、実習やって好きになった♥ (井出)

《11月 稲刈り》



ほっかむりして気合い入れたよ!! 虫はいっぱいだし、足腰筋肉痛になったけど、すごい楽しかった♥ (飯尾)
昆虫がいて、自然と共存しているように体感することができた (高橋)



明るいうちからアルコールを飲みながらのバーベキューは最高でした。車6台での移動、お疲れ様 (青山)



クラスのみさんと田んぼを守ってくれた方達が協力して出来た稲。11月で寒かったけど、冷たい泥んこの中を子どものようにハシャキながら、稲刈りしました。(加藤)



江ノ島でしらす丼を食べて、海でジャンプ!楽しかった〜 (石井)



学生と1科3年生 共に歩んだ一年

1科14期生

澤 知樹 土屋正人
宮口昂太 小椋聡美

担任

斉藤みゆき 福井慶子 名波すえ子

在宅老年実習

在宅実習では、グループに分かれ利用者の自宅へ訪問して実習をおこなった。筋ジストロフィー、進行性核上性麻痺、パーキンソン病、脳梗塞などを患った患者さんを受け持った。筋ジストロフィーを患った方は、地域での障害者に対する支援不足から他の地域へ引越すことを考えていた。このように高齢者や障害者には、社会保障に対する不安が多くあることを学んだ。利用者が在宅で暮らしていくために様々な制度がある。しかし、少子高齢化により財源が不足していることにより十分なサービスが受けられない問題があることを知った。

老年実習では、高齢者の身体的特徴を踏まえて実習に臨んだ。脳梗塞を患いリハビリ目的で入院してきた患者さんでは、ADLの向上が目標となっていた。移乗や更衣時などに高齢者の自立を支援する関わりが重要であることを学んだ。また知識と経験豊富な高齢者とたくさんのコミュニケーションをとると笑顔がみられ、たくさんのことを教えて頂いた。



在宅老年実習発表

研修旅行

私たちは10月4日～10月7日の4日間広島に平和や原爆の真実、戦争での歴史を学ぶため研修旅行に行った。一日目は、平和記念公園に行き実際に広島に原爆投下を体験された被爆者の方から当時の悲惨な話を伺った。話を聞くことで今では考えられない地獄のような状況が当時の日本では起きていたことを知ることができた。たくさんの人々が一瞬にして亡くなった。この悲惨な出来事を忘れずにしっかりと後世に受け

継いでいかなければならないと感じた。

二日目は世界遺産である厳島神社を見学した。厳島神社はとても美しく、野生の鹿が多く生息していて観光客がたくさん来ていた。宿泊したホテルも海が目の前にあり景色がきれいだった。

三日目は、当時の日本軍が秘密裏に毒ガスを生産していた大久野島へ船でいった。現在は、休養地となっておりうさぎが放し飼いされており穏やかな場所であった。しかし戦争中には、毒ガスが大量に生産されていた。そのことを想像する恐ろしい気持ちになった。毒ガス島で働いていた労働者は、毒ガスの影響により健康被害を受け、現在では補償を受けている。しかし、満足できる補償とはなっていない。日本の教科書には広島に原爆投下されたことは記述されているが、毒ガス島が存在し、毒ガスによる被害があることは記述されていない。原爆投下以外にも様々なところで戦争による被害があることを知ることができた。



宮島



大久野島



研修旅行集合写真

研修旅行を通して私たちが考えていた以上に戦争の傷跡は深く、全員が戦争は二度としてはならないことだと感じた。この学びをさらに深め、日本や世界が今後悲惨な戦争を起こさないように周りの人たちに伝えていく必要があると感じた。

成人Ⅲ実習

実習で受け持つ患者さんの年齢も様々であり今までの実習の知識を活かして実習に臨んだ。患者さんには、家族、仕事、経済問題と様々なところに不安やストレスがあることを学んだ。また病態だけでなく、後期高齢者医療制度や診療報酬についても考えることができた。後期高齢者医療制度では、医療費の自己負担が支払えないことから医療を満足に受けられない人が多くいる。このような人々がしっかりと医療が受けられるような医療制度が必要なのではないかと実感した。

総合実習

3年間の集大成という実習であり、今まで学んできたことを活かして実習に臨んだ。糖尿病を患っていたため食道がん手術を受け創傷治癒が遅れてしまい食べられないことにストレスを抱えた患者さんや夫と二人暮らしの高齢者で医療費、家族の介護力の問題から退院の目途が立たない患者さんを受け持った。コミュニケーションを通して患者さんには、身体的な痛みだけではなく、家族、経済、精神的な痛みが関わっていることを知った。全員が3年間の自己の成長を実感し、自己の課題に向き合うことができた実習だった。



病態説明



卒論発表

学生と2科1年生 共に歩んだ一年

担任
山口人美 生田知歩

学校に入って初めての合宿研修

入学してすぐに近隣で在宅療養している方を訪問し、日常生活の様子を見させて頂きました。生活の中での工夫や苦勞に感心しました。特に戦争体験の話は自分達には経験の無いことなので、今ある命の尊さを重く感じました。また、クラスメートの名前も覚えていない時期のグループワークに戸惑いながら協力することの大切さを学びました。2年生との交流もあり、クラスのコミュニケーションもとれ、これから学ぶ2年間の学生生活が楽しみになりました。



田植え体験

看護学校で「田植え」の体験をしました。何故看護学校に田植えが必要なのか不思議でした。生命活動という授業を受け、太陽や地球の誕生から私たち人間に繋がる生命の誕生を学びました。私達が生きていく為には、食べるということがとても大切だということ、そして、稲も人間も全てが自然の中で循環していることを学びました。秋には「稲刈り」「収穫祭」も行い、収穫の喜びを通して、「生命」の恵みを皆で楽しみました。



看護技術の移動・運動の授業の学び

4月に車椅子体験をしました。押しってもらうのに申し訳ないと思う気持ちを今でも覚えています。少しの段差や上り道、車の往来もあり、とても怖く感じました。人目にも気になり、恥ずかしい気持ち、車椅子を押す方も道によってはかなりの力を要すること、乗車している人の乗り心地も気になりました。このような気持ちも実際に体験しなければ気付かないことと改めて理解することができました。



生活労働フィールドでの学び

農業や民商（飲食店・美容院・工務店など）、工場などで働くプロの方々の仕事を見せて頂き、短い時間でしたが一緒に体験させて頂く事で、労働とはどんなものか学ぶことができました。病院には行っていないが肩こり・腰痛・過労など身体的な苦勞があることを知り、健康と労働が繋がっていること、看護の仕事が病院の中だけではない事を学ぶことができました。



基礎実習

基礎実習では長年高血圧、糖尿病を患いその後、脳梗塞を発症した患者様を受け持ちました。麻痺が重く日常生活において介助を必要とし、一日のほとんどをベッドで過ごしていました。まだ働き盛りの60歳代で病気を抱えながらも、土建の仕事をして家族を養っていました。家へ帰りた、愛犬の散歩をしたいとの願いを持ちリハビリを積極的にを行い、車椅子へ乗れたことや外まで行けた事をとても喜んでいました。しかし、入院中のリハビリが出来る期限が定められていることを知りました。重度の麻痺を持ち自宅へ帰る事の難しさ、退院後の生活、経済面での不安は解消されることはありませんでした。退院後もリハビリを続けなければ回復した機能が低下することに気づきました。しかし現状では十分なリハビリを受けられる制度はありません。誰もが同じように安心して医療・介護を受けられる医療制度や社会制度のあり方について考え学ぶ必要があると感じました。一人の患者様に日々接する中で様々な願いを持っていることに改めて気づくことが出来ました。また病態を学ぶことで必要な援助が見えてくるのが分かりました。患者様の願いや要求とあわせ、事実を捉えていくことが大切であると今回の実習を通して学びました。



学生と2科2年生 共に歩んだ一年

担任

菊池静華 伊波すみ子



あつく語る笹さん

国立療養所栗生楽泉園

4月には群馬県草津町にある栗生楽泉園を訪問しました。看護総論の授業でハンセン病の「歴史」や「人権」について学んできました。実際にハンセン病を患い長い年月を壮絶な苦しみと迫害の中で生きてきた笹さんからお話を聞き、療養所の生活の場と重監房跡地を見学しました。生の声を聞いて、実際に自分の目で見たことで、医療が差別を生む残酷な歴史の重さを感じることができました。そして命の重み・大切さ、人権とは何かを学びました。また笹さんから私達に向けて『希望を持って、夢を持って、それを叶えるためにあらゆる障害を乗り越えて、その可能性を無限に持っている。』とメッセージを頂きました。



母性実習健康学習会

前期各論実習

外科実習では、健診で横行結腸癌が見つかり手術することになった患者さんを学生2人で受け持たせて頂きました。術

前から術後までの病態を学び、観察やチームワークの大切さを知り、患者さんの頑張りを応援することができました。さらに、グループ全員が協力し「痛みをガマンしないで、早く歩いて傷を治そう」というテーマで入院患者さんを対象とした健康学習会を実施しました。参加された患者さんから「術後、患部が痛いからといって大事をとって動かないようにしたいのは素人考えで当然のように思いますが、お話を聞いてまったく逆であることを勉強させていただきました。」というお礼の書状が寄せられ、学生ならではの応援ができたという励みになりました。母性・小児科・精神科実習においても、外科実習と同様に各自が多くの学びを得て、クラス全員で学びを共有することができました。



外科健康学習会「傷の治り方はどうやって治るの？」

研修旅行

岩国基地・広島へ

米軍岩国基地では、10分おきに戦闘機が着陸態勢に入り爆音をたてながら基地に戻ってきていました。岩国市民が住んでいる頭上で危険な訓練をしている事実と安全保障条約とは「どこの誰に対しての安全保障なのか？」と投げかけたくなりました。平和記念公園には原爆投下時に建物でたった一人生き残った地下室が残っており、その中で高橋さんより当時の悲惨な状況を聞きました。爆風で本棚は倒れればらくは投げず落ち着いた後階段を上がると、黒く焼けたものがあり、それが人だったという衝撃的なことを聞きました。また、矢野さんより被爆体験を聞かせてもらいました。矢野さんはあま

りの辛い体験から自分の殻に閉じこもっていましたが、先輩の手記を読み自分も被爆者として二度とこのようなことを起こさないように皆に知ってもらわなくてはいけないと話してくださいました。戦争は終わっても戦争で負った傷は残っていることを知りました。



研修旅行 広島城



研修旅行 平和記念公園

老年実習

老年実習で、ある学生が受け持った大柄な40歳代の男性は、12時間労働という過酷な労働から脳幹部出血を起こしました。受持ち時、人工呼吸を装着し意思疎通を瞬きによって行うというような状態で、主治医からは経口摂取できない可能性・麻痺が残る可能性があるという事を伝えられました。しかし、どんなに辛い状態であっても病気に立ち向かい健康を取り戻そうと頑張っている患者さんの力強さや「リンゴが食べたい。住み慣れた家に帰りたい」といった願いを知り、口腔マッサージや嚥下運動などを行い応援していくと、とろみのついた物を食べられる程まで回復していきました。

このように脳の可塑性の素晴らしさを知ると共に、患者さんの願いに応えるためには、患者さんの身近にいる看護師を中心として、医療者全体で保障できる環境を作る事が必要であると学び、社会保障について総合実習で学ぶ事になりました。

総合実習

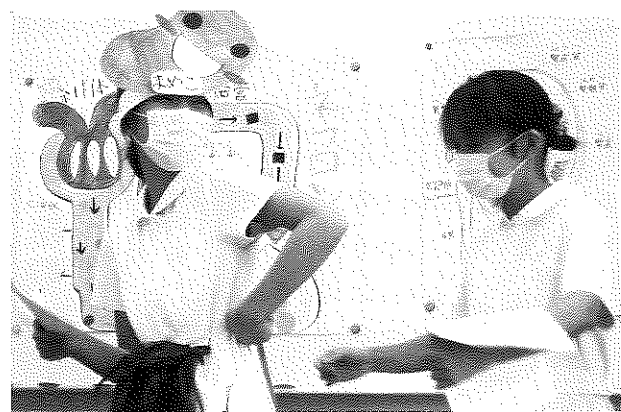
総合実習では、老年期実習中に感じた問題意識からグループ毎に研究テーマを決め、社会保障制度を軸にして学びました。学びを深めていくと、日本国憲法で保障されているはずの基本的な人権が保障されていないことに気付きました。医療保障はすべての人が対象となり、国の責任で保障されなければならないはずです。私たちは、医療従事者として医療・看護だけを学ぶのではなく、行政にも目を向けられる広い視野を持ち、誰もが安心して暮らせる社会になるよう、患者さんの基本的な人権擁護の立場に立った医療・看護を提供できる知識・技術を身につけ、声を出していくことが大切であると学ぶことができました。



総合実習ゼミナール



老年実習 健康学習会



老年実習 空豆まめ子（腎臓の働き）

学校評価懇話会の実施について

副校長 石倉 啓子

本校は2006年から「自己点検・自己評価」の実施に取り組み、2009年度に内部評価文書を完成させることができました。今年度はその内部評価に対して「外部評価」をどのように実施するのが課題でしたが、以下のような構成メンバーによる「学校評価懇話会」を開催しました。もっとも大切にしていこうと考えているのは、教育活動の一方の当事者である学生の意見ですが、当日はまさに学びの主人公として積極的、建設的に発言し、我々をおおいに励ましてくれました。「懇話会」の目的は以下の2点です。

- * 懇話会の核心となるのは学生や教育環境に関する現状認識を一致させた上で、本校の教育理念の実現のために、直接、双方向的に意見交換することで、それぞれが努力すべき方向を見出し協力関係を強めていく。
- * これらの作業をとおして「開かれた学校づくり」につなげる。つまり、学生・父母・臨床・講師・地域の方々と共に、学校づくりを担う当事者としてお互いに責任を分かち合いながら協力関係を深めることが出来る。また、そのような運営の工夫を大事にする。

2010年外部評価委員の皆様

学校外有識者

勝野 正章 (東京大学准教授)
山田 功 (本校前校長)
三上 満 (本校元校長)

学校教育関係者

学生自治会 (会長 副会長)	西谷 洋紀 浅木 祐 福田 匡
実習施設 教育担当師長	小渕 尚子 宮下 智枝 中村 君子 下 正宗
東葛病院院長：本校講師 東葛病院附属診療所所長 ：本校講師	伊東 繁 嘉陽 克子 桐島 次郎
小児看護学講師 教育学講師 地域フィールド提供者	斉藤 教子 梅林美由子 市川 善章 前田 梨絵
同窓会 (会長：副会長)	高野 昇 黒瀬 杏子
父母代表 (1 - 1年生から)	

ようこそ先輩

私は東葛病院の4階東病院で勤務をしていましたが、現在は第2子出産のために産休に入っています。

第1子を出産した際、これを機に退職して育児に専念することを本気で悩みました。しかし、また復帰して働くことを決めたのは、同じ院内にいる同期の友達の存在でした。彼女たちがいなくなったらきっと私は専業主婦だったと思います。学生時代から苦労を共にしてきた仲間は一生の宝物です。

第2子出産後も職場復帰するつもりですが、同期とグチを言ったり遊んで息抜きしながら、上手に育児と仕事の両立が出来たらいいなと思っています。

1科5期生 田仲 祐子



学生自治会紹介

自治会長 西谷 洋紀

こんにちは、第15期学生自治会です。

去年の9月に役員選挙を行い、新たなメンバーで活動しています。

主な活動内容としては、学生が主体となり、より良い学びを深めていけるような学生生活をめざしています。

12月は、全校の学生に、授業・実習・学生生活についてのアンケートを実施し、学生一人ひとりの様々な声を聞かせてもらうことができました。

そして1月、学校と学生自治会で懇話会が行われ、アンケートを基に、共により良い学校、学生主体の学びをめざし、とても有意義な話し合いをすることができ、学校、学生双方の相互理解を深めることができました。

また、学生との懇話会を基に、実習先の指導者さん、外部や臨床の講師の先生、地域や父母の方達を含めて、学校評価懇話会が行われ、教員、学生の様々な思いを共有することができました。

学生の声を拾い上げ、より学生が学びやすい環境づくり、学校づくり、学校、学生の相互理解を深められるようご尽力してくださった石倉先生、本当にありがとうございました。

学生自治会も学生一人ひとりがより良い学生生活を送ってもらえるよう頑張りたいと思いますので、よろしくお願い致します。



学校と学生自治会との懇話会

学生自治会役員 2010年度（9月～2011年9月）

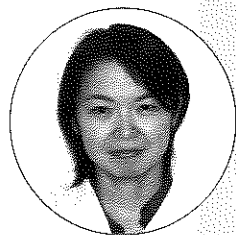
自治会長	西谷 洋紀		
副会長	浅木 祐	福田 匡	
会計	高橋 利典	中島 葉子	
書記	小宮 恵	松坂有利子	高橋 由美
庶務	渡邊健太郎	関口 菜月	関 真一

ようこそ先輩

私が、看護学校へ赴任して初年度に担任をしたのが5期生です。卒業から9年がたち、現在では5期生は病棟でも中核的な役割を担っています。生き生き逞しく働く5期生を見ると、本当に嬉しくなります。現在では田仲さんのように子育てをし始めた方もおり、働き方や女性としての生き方を模索しながら30代を過ごすところですね。大変だけれど、人としても逞しく成長しているときですね。

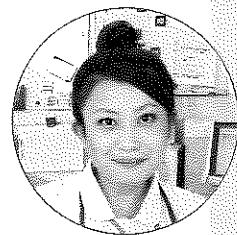
学生時代から、人間大好き・看護大好き、本来の人間らしくのびのび自分らしく生きていた5期生達。私にとっても宝物の3年間。田仲さんのように、同期の仲間を、一緒に働く仲間を室に、いつまでも「患者さん大好き」の5期生でいてくださいな。

1科5期生 元クラス担任 山田かおる



看護師になってもうすぐ11年目になります。東葛病院の4階東病棟に勤務しています。経験を重ねるほど、自分の看護についてこれでもいいのか、患者さんの立場にたつ看護について考えるようになりました。私は臨床指導を担当しています。実習の指導は難しいですが看護の楽しさを学生に伝えたいと、悩みながらも楽しく学生の指導にあたっています。学生の指導にあたることは、自分の看護を振り返る機会にもなっていて学生と一緒に勉強させてもらっています。

2科5期生 前田梨絵



学ぶ青春

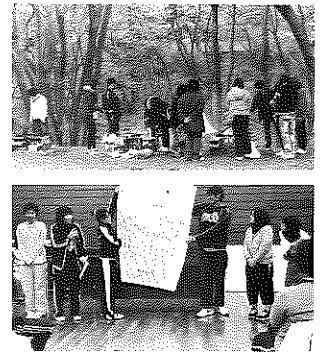
キラリ



稲刈り



トランスファー校内実習



'10.4~11
小林功
モノクロ写真館



真剣な校内実習



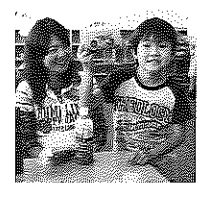
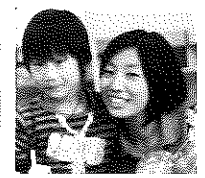
校長敬送迎会



生活労働フィールド



東葛祭 野田一民展



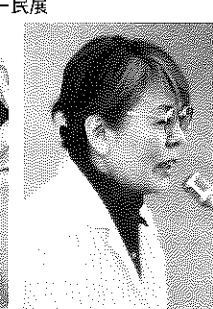
田植え



名波先生



臨床実習



石倉副校長



牧野アンナ氏



東葛祭 後夜祭コーラスサークル



手話

